

当院で経験した骨髄異形成症候群症例の予後因子に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年11月2日～2022年3月31日

〔研究課題〕 当院で経験した骨髄異形成症候群症例の予後因子に関する後方視的研究

〔研究目的〕 当院で加療を行っている骨髄異形成症候群の治療成績について、後方視的に解析を行い再発や生存に既存の予後因子がどの程度反映されているか、また一般的に行なわれる初診時や入院時の採血データからどのような因子が関わっているのかを研究することを目的としています。

〔研究意義〕 骨髄異形成症候群は血球数、染色体検査結果などを踏まえた世界的な予後因子の報告があります。ただ、それは非常におおざっぱなものであり、また日本人にどこまで反映するかは明らかではありません。一方骨髄異形成症候群に罹患する年齢は壮年以降が多く、他の合併症などの影響も治療成績に影響する可能性があります。そのような点が少しでも明らかになれば今後の治療がよりよいものになっていく可能性があります。

〔対象・研究方法〕 帝京大学医学部附属病院血液内科で治療を受けた骨髄異形成症候群に罹患された患者さんが対象です。初診時や入院時に行なう一般的な検査や現在用いられている予後因子のデータ、並びに診断確定用の末梢血並びに骨髄液検査結果を用いて、白血病への移行期間や良好な状態がどれくらい続いていたか、QOLに関してはいかがか、などに関して後方視的に解析を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕 情報は個人が特定できない形で使用させていただきます。情報は倫理委員会事務局に提出し、保管期間は研究終了から10年間（ただし、研究責任者から申し出があった場合には、その都度保管期間を延長できる）となり、廃棄方法は帝京大学臨床研究センター事務局が情報漏えい・滅失・き損等に配慮して廃棄します。対象となる患者さん（もしお亡くなりになられていたらご遺族）で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 教授 白藤 尚毅

研究分担者: 助手 住吉 立

所属: 帝京大学医学部内科学講座 血液腫瘍研究室

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 31600]